

# そらがく

(No. 70)

R3. 3. 11 発行

現職研修委員会  
総合的な学習部編集



## 自ら問いを立てる

総合的な学習部長 森 竜師

校舎から駐車場に向かう途中、東の空に姿を見せたスノーモーン。凜とした空気が、その輝きを夜空に一層美しく見せてくれました。

古くから、月は神秘的な存在です。人は、空に輝く美しい月を眺めながら想像を膨らませ、神話や伝説を作り、日本でも和歌に多く詠まれてきました。しかし、私の目に映る月は、そんな文学や芸能にみる月の姿とは違います。天球に張り付いた円盤は、約三十八万キロ離れた奥行のある空間に浮かぶ球体であり、地球を周回する一つの衛星です。

夜空を見上げたとき、その平面に星座を描きながらも、さらにそこには奥行きがあることを知った時、無限に広がる空間に、ポツンと立つ自分に気付かされます。天球に点で輝く星々は、全て地球から異なる距離に位置し、それぞれが広大な宇宙空間に浮かぶ球体であることを、私は知っています。その知識が、宇宙への興味と関心、そしていくつもの問いを一層沸き立たせるのです。

さて、総合的な学習の時間の本質は、探究的な学習の過程にあります。問題解決的な活動を発展的に繰り返す、探究的な学習の過程。そのスパイラルにおいて「課題の設定」は、単なる「調べ学習」から脱却するためにも、特に重要なステップです。

子供たちが自ら課題を発見し、解決に向けて動き出す、この探究的な学習は、「自ら問いを立てる」ことから始まります。

問題意識をもって主体的に考えるところという内発的な動機は、知的な欲求に導かれるものです。ここに、既習の知識や技能の確実な習得を欠かすことはできません。そして、教科の特質に応じた知識や考え方を、教科の枠を超えて再構築することで、知的な興味や関心は一層広がっていくはずで

す。もうひと月もたつて、次に満月が見られる頃には、春の兆しと四月から始まる新しい学校生活に、子供たちは胸を躍らせていることでしょう。

新たな学年で始まる、来年度の総合的な学習の時間が、子供たちの「自ら問いを立てる」ことから始まる、確かな「探究的な学習」となることを期待しています。

## 今年度の指導員訪問報告

生活科・総合的な学習の時間指導員 廣瀬 浩司

コロナ禍での指導員訪問が二年目を迎えてしまつた今年度でしたが、中止になることはなく十三の小中学校で授業を参観できたことを嬉しく思っています。複数の学校が協議会を「basis」で行ったり、スクーリングを効果的に使つて授業を展開したりするなど、新しい形の指導員訪問が定着してきました。

今年度は、SDGsを扱った授業が多くありました。私たちの生活と十七の達成目標が直接結びついているので、課題を自分事として捉えることができます。A中学校のB教諭は、日本の食糧問題をきっかけに食品ロスに注目しました。子供は現状を改善する必要性を感じ、自分たちにできることを考えました。「スーパーは賞味期限が近い商品が前列に陳列されているけど、僕は後ろの方の新しい商品を買ってしまふ。でも、それはよくない」と、課題に対して本音で語る姿が見られました。C小学校のD教諭は、給食の残飯の多さに注目し、子供にフードロスの意識をもたせました。ロス削減に向けてできることをチーム学習で考えました。E中学校の三年生は、学校や学区の問題点をSDGsの視点と結び付けて考え、問題解決学習に取り組みました。「学校へマイストローを持参する」「学校中に節電を宣伝する」など、具体的に今の自分たちが実現できることを考えることができました。

来年度は、チーム学習やグループ学習を取り入れながら、「IC」を更に有効活用した個別最適で協働的な学習の実現が求められます。各学校の総合的な学習の時間で、追究し続ける子供の姿に期待しています。

# 授業実践紹介

考えた やってみた SDGs

六ツ美北中学校 廣瀬 浩司

今年度、私の担当する中学校三年生（二百五十名）七学級で実施した総合的な学習の実践を紹介します。四月、今年一年間は「SDGs」を軸に単元を展開しようとする学年会で提案しました。六月までは、教師も一緒になって、SDGsの十七の達成目標について、個人追究を進めました。その後、各学級でウエビングマップを使って、学級全体の問題意識を整理し、各学級の課題を設定しました。

二期期からは、各学級の探究活動が加速していきましました。（左表…七学級の課題と活動内容）自分で決めた課題だったからこそ、子供たちは主体的・協働的に活動を進めていきました。毎週の総合の時間になると、子供たちの目は輝いていました。

二月中旬、学年全体で発表会を実施。その後、二〇二〇年を見据えて、各自が自分の思いを短冊に表現して、単元を

組	課題	活動内容
1	クリーン&エネルギー	・ト部川にネットを張ってゴミ回収 ・自転車をこいで自家発電に挑戦
2	障がい者と生きる世界	・学区バリアフリーマップ作成 ・近隣の小学生とゴールボール
3	NO MORE 無駄	・学区の企業のフードロス取組調査 ・環境保全に取り組み3団体を招聘
4	キャップで地球を救う	・ペットボトルキャップ回収。学区内の公共施設、小学校とタイアップ
5	高齢者とともに生きる	・近隣の4つの老人ホームへの訪問 ・未来の介護ロボットについて調べる
6	ありのままの自分を見つめる	・LGBTQを理解し、実際に性同一性障害の方と継続的な交流
7	伝えよう広めよう SDGs	・17の達成目標を理解し、新聞作成 ・近隣の小学校へSDGsを広める活動

閉じました。

SDGsの目標が達成されると考えられる八年後、子供たちがどんな大人になっているのか。この一年間の学びが、一人一人の人生にほんの少しでも活かされていたら幸いです。

## 学び舎の 総合耳寄り情報

三年生は、「東公園のすてき！再発見」をテーマに学習を進めています。東公園には動物園以外にも岡崎にゆかりのある偉人についての銅像や施設があることを知り、その人物について調べました。調べたことをスクールタクトにまとめ、他のクラスにも共有しました。

（根石小学校 近藤 貴施先生）



近隣の小学校に出向き、「障がい」についてプレゼンする様子

六名小学校では、三年生の総合の時間で、「いのちを見つめよう」と題して調べ学習を行いました。児童が興味をもった生き物の生態について、タブレット端末等を利用して詳しく調べ、壁新聞にまとめて発表し合うことで、たくさん生物の特徴を学びました。（六名小学校 古崎 徹先生）



（六名小学校 古崎 徹先生）

五年生は、「長年守り続けられてきたビスタラインと地域の関わり」をテーマに学習しています。

探究をする中で「いろいろな人の思いが詰まったビスタラインを私たちも未来に残したい」「地下に作られた体育館を自慢に思った」など、郷土への愛着を深めることができました。

（大樹寺小学校 玉腰 理江先生）



四年生は「ツバメの保護」をテーマに活動しました。ツバメの糞を顕微鏡で調べると、トンボの羽が見つかりました。そこで、ツバメの餌であるトンボが増えることで、飛来するツバメが生きやすい環境になると考えました。トンボを増やすために、学校の裏山にある池をヤゴがすみやすい環境にしようとして取り組んでいます。

（生平小学校 水谷 真夢先生）



二年生は、クラスで意見を出し合い、SDGsについてできることに取り組みました。チョーク製作では、短いチョークを練り、長いチョークに戻したり、新色のチョークを作ったりしました。活動を終えて、多くの生徒が家庭でもできるSDGsの取り組みを考えて実践したいと振り返りました。

（北中学校 渡會 大貴先生）

